

平成23年度 こうちふるさと寄附金の実績と活用状況のご報告

1. 寄附金の実績

平成22年度には、「こうちふるさと寄附金」として、238件、13,340,975円のご寄附を頂きました。あらためて感謝申し上げます。

2. 寄附金の活用状況

平成22年度に頂きましたご寄附は、下記の平成23年度の事業（4分野8事業）に活用させていただきました。

<分野1 こうちの「山」「川」「海」の環境を守り育てる>

○清流保全計画指標モニタリング事業（650千円）

物部川と仁淀川の本流及び支流のそれぞれ9地点において水質調査を実施し、物部川清流保全推進協議会及び仁淀川清流保全推進協議会の取り組みの達成状況を把握するための指標を収集するとともに、流域の小学生達が環境学習の一環として取り組むことができるよう、水温、透視度及び水生生物など、より人の感覚に近い評価指標を収集しました。

○清流基準モニタリング事業（474千円）

国の水質基準では、四万十川のような清流を評価する項目が制定されていないため、県ではその清らかさを人間の感覚に近いもので表現する目的で、「四万十川清流基準」を定めています。四万十川流域では、学校の生徒や住民自らが水質や水生生物等の生息状況の調査を行うことで、四万十川の価値を直接肌で感じ取り、清流を守る思いを深め、広げていくことにつながりました。



○環境美化推進事業（1,050千円）

清潔で美しい県土に暮らすことで、教育や治安はもとより、モラルに好影響を及ぼし、ひいては産業や観光の活性化に結びつけることを目的として、2月の県民一斉美化活動を中心に県内各地で美化活動を実施しました。また、啓発用ポスターを作成して、協力企業等の事業場や公共施設、公共交通機関などに掲示したほか、美化活動後には花壇の新設など美化創出及び啓発活動も行いました。



<分野2 ふるさとの文化と子どもたちを守り育てる>

○土佐戦国七武将観光資源化事業（2,237千円）

長宗我部氏を初めとする土佐戦国七武将の山城跡など、県内各地に埋もれている歴史素材を観光の視点から魅力あるものに磨き上げるため、史跡を巡るツアーを実施しました。8回のツアーに県内外から309人が参加し、地域の歴史資源の再発見や土佐戦国期の史跡の紹介・周知を行い、ツアーの人気の高さから、平成24年度は旅行業者等を中心とする事業に繋がり、参加者枠が拡大しています。



○高知県学校図書館活動推進事業（1,217千円）



学校図書館活動の活性化を図り児童生徒の読書に親しむ態度を育成し、読書習慣を確立することにより、豊かな感性や思考力・表現力を育成するため、推薦図書リスト「きっとある キミの心に ひびく本」を公立小中学校1年生を対象に11,200冊配付しました。また、掲載図書の感想を他者に伝える「高知県わくどき！ショートコメントコンテスト」を開催し、応募校等の児童生徒の多様な読書が進められました。（応募作品6,024点）

○ふるさと教育推進事業費補助金（1, 893千円）



ふるさとへの理解を深め郷土愛を育むため、地域で専門性や広域性を活かして活動している団体に助成を行いました。土佐史談会では、中世から近代に活躍した郷土の人物に関する「土佐の偉人十講座」の実施（参加673名）や郷土歴史散歩（参加79名）を行いました。また、高知県連合婦人会では、県内3箇所の札所において小学生（参加254名）とともにお遍路さんへの接待を体験することで心のふれあいやおもてなしの心を養いました。

<分野3 龍馬がふるさと「高知」を盛り上げる>

○志国高知龍馬ふるさと博推進事業費補助金（2, 362千円）

2010年の大河ドラマ「龍馬伝」により盛り上がった高知県観光を更に力強いものにするために開催した「志国高知龍馬ふるさと博」の公式ガイドブックを作成しました。遊・食・花・人の4つのテーマで県内各地のイベント情報や本県の魅力ある観光資源を発信し、観光客の県内各地への周遊を図ることで、観光地の賑わい創出及び高知県経済の活性化に取り組みました。



<分野4 元気あふれるこうちをつくる>

○平成23年度土佐のいい物・おいしい物発見コンクール（2, 931千円）

消費者及び専門家による評価を通じて、商品改良・開発、販路開拓の促進を図るとともに県内産品のPRを目的として商品発掘コンクールを実施し、独創性、パッケージデザイン、味等7つの視点で10商品を入賞商品として選びました。入賞商品については、ふるさと祭り東京2012において高知県ブースとして出展したほか、高知県アンテナショップ まるごと高知での展示販売等のPRを行いました。

